流石は王子専属の政務官殿ですな

ずっしりとして張りのある良い物をお持ちではないか

貴方の様な卑劣な人間を王子は決して許さないでしょう
ほう、そいつは怖いな
で？王子様はいつ来てくれるのかな？
もうじき…もうじきです…！

ではそれ迄はこの身体を楽しめるという訳だな？

うりうりー

あっ…

ビクンッ

あぁ…

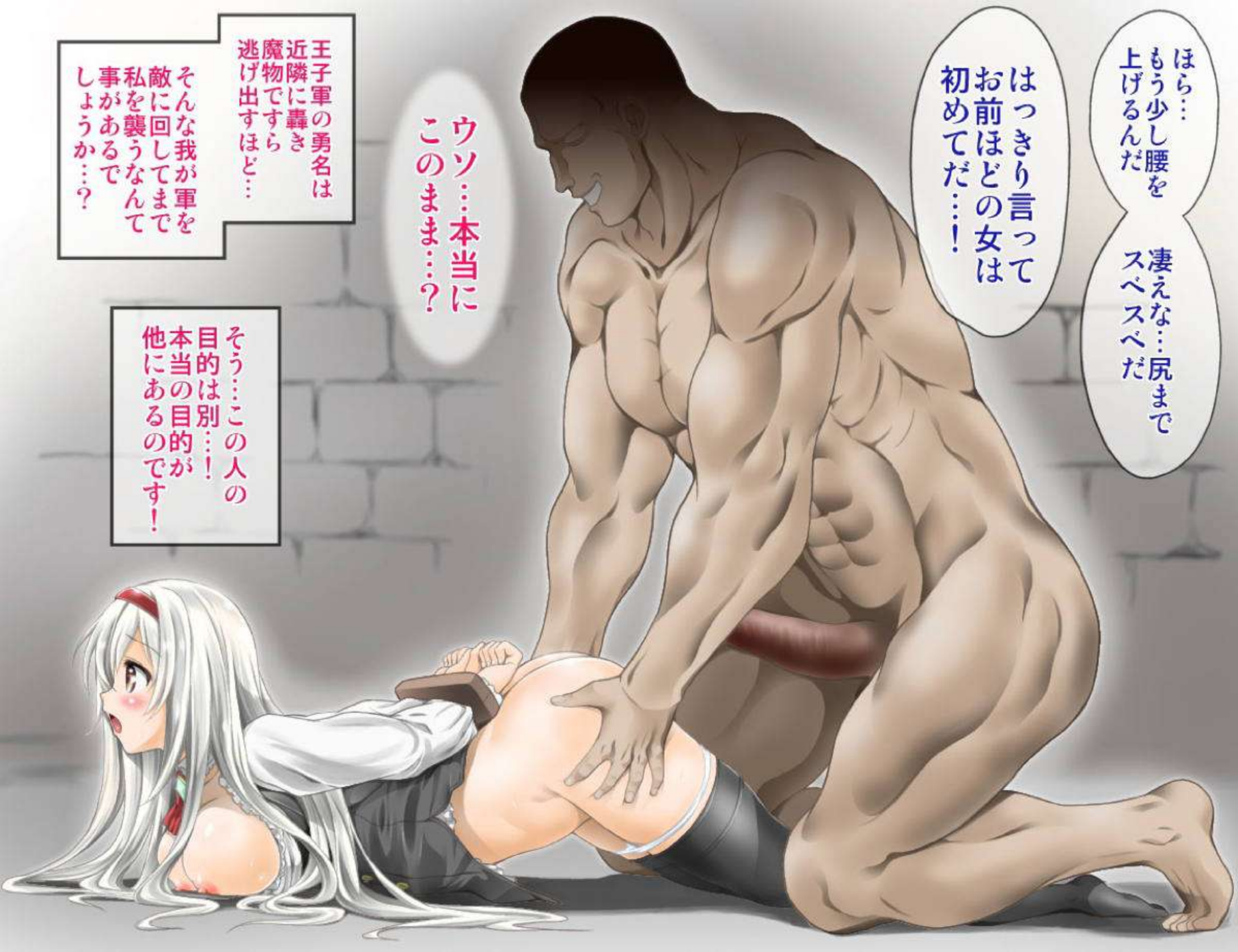
…早く来て下さい王子…！

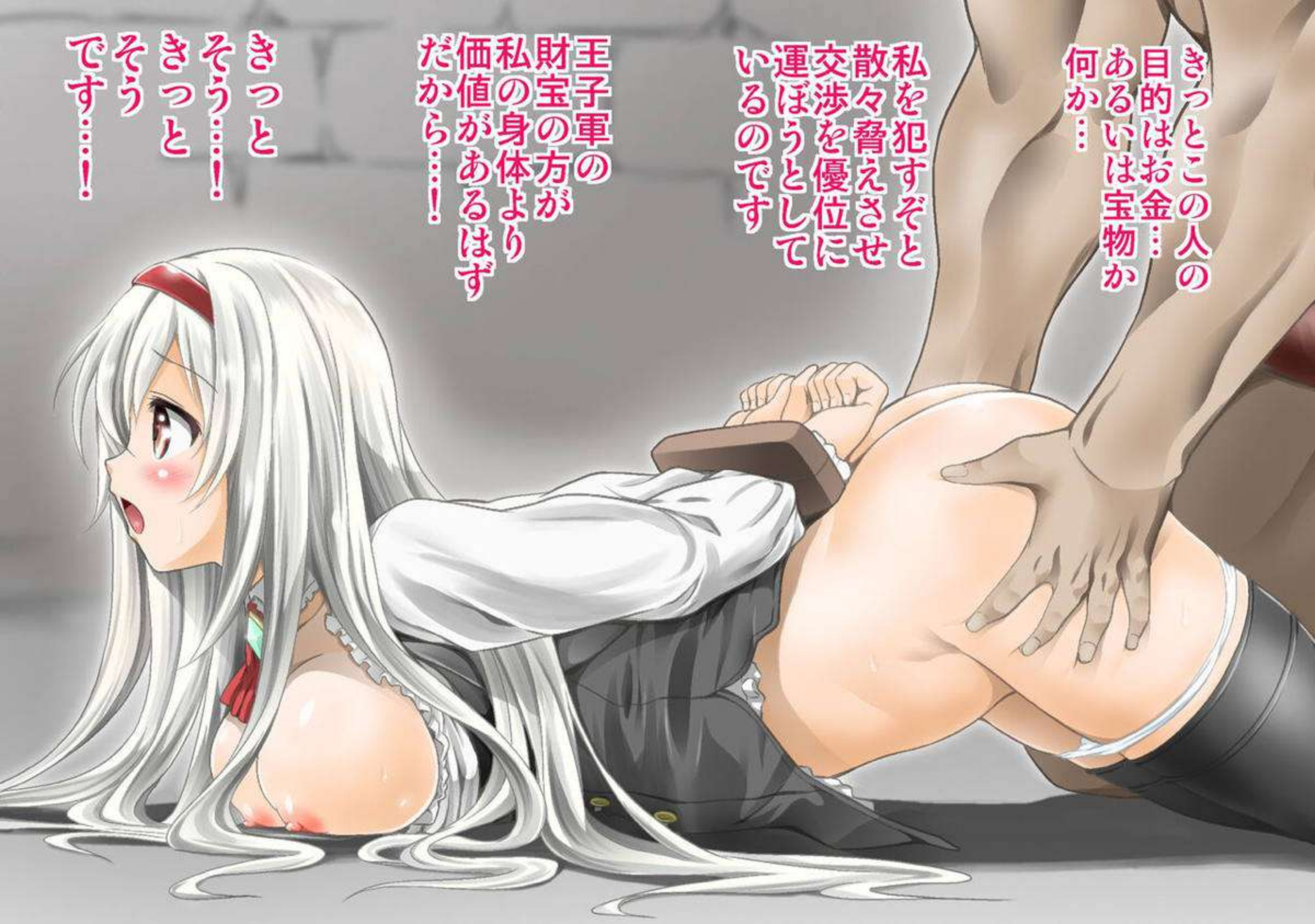
女神アイギス…どうか私をお護り下さい…！

くく…結構小さいのをはいてるんだな
王子のご希望かな？
そっ そんな事っ
貴方には言う必要ありませんっ！
ひと月ぶりに王子に呼ばれる予定だったから…

…例えこの身体が穢されても私の心は王子のものです！
そして貴方にはアイギス様の神罰がっ…
あっ…？
する

アイギス…さまの…しんぱつが…
きっと…下る…でしょう…
お尻丸出しの政務官殿？
んん～？良く聞こえませんぞ？
くいくい


ほら…もう少し腰を上げるんだ
凄えな…尻までスベスベだ
はっきり言ってお前ほどの女は初めてだ…！
王子軍の勇名は近隣に轟き魔物ですら逃げ出すほど…
そんな我が軍を敵に回してまで私を襲うなんて事があるでしょうか…？
ウソ…本当にこのまま…？
そう…この人の目的は別…！本当の目的が他にあるのです！


きっとこの人の目的はお金…あるいは宝物か何か…
私を犯すぞと散々脅えさせ交渉を優位に運ぼうとしているのです
王子軍の財宝の方が私の身体より価値があるはずだから…！
きっとそう…！きっとそうです…！

「…貴方の本当の目的はお金ですね？」
「何…？」
「こうやって私を脅えさせて交渉を有利に運ぼうと考えているのでしょう？」
「流石は察しがいいなそう、俺の望みは一生遊んで暮らせるだけの金だ」
「ならもう回りくどい駆け引きは止めにしませんか？貴方にとっても長引く事は嬉しく無いはずです」
「確かにそうだな…あんたが俺の提示した額と身の安全を保証してくれるなら何もしないと約束しよう」
ほ、本当ですね!?

もちろん
ウソだ
!?
俺の熱が
お前にも
伝わるだろ？
こうなった男を
金で動かせると
本気で思ったのか？
いや…
許して…
それに俺は
お前が気に入った
街ひとつ、国ひとつを
差し出されてもお前を
渡すものか！
ぐちゅっ

確かに茶番はここまでだ！
一晩中可愛がってやるぞアンナ！

ズバッ

ぐはー!?

アンナ無事か!?

王子…!

遅れて済まない

しかし女神アイギスの導きがあった

ああ…アイギス様…!

アンナ…！

いなくなって初めて気付いた

お前がどれだけ大切な存在だったかを

…ずっと俺の側にいてくれるか…？

勿論ですとも王子…！

なんて勿体無いお言葉を…

私はずっと…王子のお側に…！

勿論そんな事には
ならないっ！

これでお前は
俺のものだ！

いやぁ
ぁぁぁ

ぐぐぐぐぐぐぐぐ

今夜は寝かさないからな！

覚悟するんだぞアンナ！

ああ…！ごめんなさい王子…！

これまでの人生で一番永い夜の始まりでした

抵抗をする術も無く…
私は王子以外の男性に
犯されてしまったのです…
くく…まるで
吸い込まれるようだ
その美貌に加え
味まで最高とはな

ぐぐっ
ぶちゅっ
王子に多少は仕込まれている様だが
ほれっ…俺の味はどうだアンナ？
ひあっ!?
な…何これ…!?

太い…！
大きい…！
王子のよりも…!!
王子のそれが…平均的なものよりかなり大きい事は私も耳にした事がありました
でも今突き立てられているものは更にふた回りも大きいのです

どうだ？俺のは王子より太かろう？
いずれこの大きさがクセになって来るからな
ぐっ
これ迄味わった事の無い圧迫感が…
嫌でも王子以外の男性との繋がりを実感させるのです…！
ひぐっ…

いいぞアンナッ
俺達は相性も
最高じゃないか
っ

王子のよりも
でかい方が気持ち
良かろうっ？

ふっ
ふっ

ふざけないで…
こんなの…

大きすぎて
苦しいだけです…

すちゅっ
すちゅっ

王子と比べる
価値も無い…！

射精（出）すぞ
アンナ！

政務官として
王国に仕え
王子を想い続けた
平和な日々

魔物によって
王城が落ち
絶望の淵から
戦い続けた一年間

互いの絆は
深まり…遂に
王子と結ばれた
あの夜…

私は一生王子
だけに尽くすと
堅く誓った

!?
そんなっ!?

待って下さい!
膣内はっ…
膣内だけは!!

何でもします!
お金っ!お金
出します!

全財産差し上げます
から膣内だけはっ!!

お願いだから
許してえっ…

はっ
はっ
はっ

いやあああああ…！

ぴゅぴゅぴゅぴゅ

そして今

私は王子だけのアンナでは無くなったのです

ぴゅる

ぴゅる

ククク…たっぷり射精ているぞ お前の膣内に
ビュク
ビュク
俺達はもう深い仲ってワケだ
彼の射精は王子とはまるで違いました
俺のは量も凄いだろう？
ひゅるるる…
注ぎ込まれる精液の量は圧倒的で
そして…恐ろしく熱いのです…！
あ…
あ…

勿論…実際に彼の精液がそこまで熱い訳ではありません
それは…私が必死に拒んだからこそ感じてしまう
ヤケドにも似た反応でした
皮肉にも…この反応は私の脳裏に深く焼き付き
その後…彼に膣内射精(中出し)される度に
私の膣内は熱さを憶えるようになってしまいました
あっ…

そして私の身体は
この後何度も何度も
その熱さに翻弄される事になるのです…！

まだまだこれから
だぞアンナ…！

いやぁ…
こんな格好…

もうやめて
下さい…！

腕が自由になり
言葉ではやめてと
言っても私は半ば
無抵抗でした

背中に感じる逞しい胸板
丸太の様に太い腕
非力な私の抵抗に何の
意味があるでしょうか

私は拘束を
解かれましたが
勿論解放される
訳ではありません

彼は私を抱き上げ
脚を開くと
今度は下から
犯し続けるのです

何より…汚されて
しまった絶望感が
私から気力を失わ
せていました

しかし私は無気力でいてはいけなかったのです

ビクンッ

あっ…？

え…？なに…？

私の…身体…！

きゅうう

放心状態でいる内に私の身体は好き放題にいじりまわされ

気が付いた時には彼の指使いに甘い反応を感じる様になっていました

おぞましくも彼は私を気持ちよくしようとしていたのです…！

ここがいいんだな
アンナ…それに
ここもっここもっ

お前の弱点を
丸裸にしてやる
からなっ

いや…
やめてぇ…

そんな所…
だめぇ…！

感じたくない…
こんな人に…！

王子…！
王子…！

ぐり
ぐり

ぴくっ…

にちょ♡
にちょ♡

彼の指使いは
あからさまに激しく
なってきました

王子に触れられた場所…
王子によって少しずつ
開発されてきた場所を…

彼は土足で踏み
にじるように
責め立ててくるのです

王子よりも太い指で…
王子よりも荒々しく…

それなのに…
私の身体は…！

こんな人に気持よくさせられてしまうなんて
それはただ犯される以上にあってはならない事でした
いやっ…こんなのいやっ！
放してっ…放して下さい！
私は非力な身体で必死に抵抗しました
身体を揺すって彼を少しでも妨害し悲鳴を上げて指の刺激から意識を逸らそうと…

黙れ
あっあっあっ…!?
あぁ〜っ…
どっぷっ
どっぷっ

そうだ…大人しくしてろアンナ

そうやって俺の精液をじっくりと味わうんだ

あ…あ…

熱い…！彼の精液は…

何でこんなに熱いのでしょう…！

どぷ…

どぷ…

彼はそのまま休まず私を犯し続けました

やめっ…あっあっ…

少し休ませてぇ…！

はっ

はっ

そんな…射精(出)したばかりなのにこんな…

こんなにペニスが硬いなんて…！

またくれてやるぞアンナ！
ひぁあぁぁぁぁぁぁ…
そんな…またっ…！
熱い…！熱いっ…！
ビクン
ビクン
ビクン
ぐちゅぐちゅ

三回目の膣内射精（中出し）…！

ああ…嘘…！

あああ…ン…！

彼の熱い精液は膣内に充満し泡だった膣口から溢れ出し

そして私のもっとも深い所へ流れこんできて…

どくどく…

どくどく…

ああ…身体の芯まで火照ってきてる…！

これで私は三度も彼の精を受け止め…

でも量だけじゃ無い…！

どうしてこんなに身体が熱いの…？

奥底からうずくような…まるで…

ゾクッ

ゾクッ

彼の射精は一回の量が圧倒的で

すでにこの時点で一晩に注がれた精液の量では王子を超えていたのです

どくどく…

んん～？

この反応…

くくく…

これはこれは…

アンナ
お前

俺の膣内射精(中出し)で
興奮してるな？

な…!? 何をっ…!

何も不思議じゃないぞ…俺達はセックスを楽しんでるんだ

相性が良ければ子種を受け止めて悦ぶのも当然の反応だろう?

ふざけないで下さい! 貴方と相性などと…

それに今までこんな事は一度も…

ほお? なるほどなるほど

俺の精子では身体が悦ぶのに

王子の精子じゃ悦べなかったと言う事か

やはり俺達の相性は最高じゃないか！

俺の精子では身体が悦ぶのに王子の精子じゃ悦べなかったと言う事か

そんな…違う…！

やはり俺達の相性は最高じゃないか！

王子とだって私は…

でも確かに…彼が相手だとこんなに…

ああっ…！
はっ…
まだまだ
これからだぞ
アンナ！

くくく…これを見ろアンナ

今のお前ならコイツの凄さが分かるだろう？

まだまだこれからって…そんな…？

あ…

あ…

ウソ…萎えてない…全然…！

あれだけ射精したのに…立派なまま…！

ドクッ

またたっぷり注いでやるからな！
あっ!? あっ!?
ビクン
ビクン
ビクン
あああああ!!
駄目っ…こんなっ…
太いっ…！硬いっ…！

ダメッ…ダメッ…
これダメッ…
はっ
はっ
はっ
この体勢…この動き…
じゅぷっ
じゅぷっ

今迄と違う所に当たって…！

そして

大きすぎて立派すぎて

苦しいだけだった筈の彼のものが…

はぁっ♥

ビクン

ビクン

ビクン

ビクン

気持ちいいっ！

奥に当たって気持ちいいのおっ♥

気持ちいい気持ちいい！

奥に当たって気持ちいいっ!!
遂に私は悦びを覚えてしまったのです
大きすぎて苦しいだけだと思っていたのに
カサの部分が肉壁をこすり上げ先端が一番奥を何度も突き上げる
私の意思などお構いなしに身体は快楽を受け入れて行く
一度この巨根を味わうコツを掴んでしまったら…

この大きさがたまらなく気持ちいい…！
はっ
やっめっ…これ以上はっ…！
はっ
はっ
はっ
これ以上はらめぇっ♥
はっ
くくくっいい具合になって来たぞお前の身体がっ！
もっと甘い声で鳴いてみせろっ！

このままじゃもうすぐ私は…！
はっ♡
はっ♡
はっ♡
あっあっあっあああっ♡
ダメ！それだけは絶対にダメ！
犯されて…王子以外の男性とセックスして…
達してしまうなんて絶対にダメ！
耐えないとっ耐えないとっ
じゅぷっ♡
じゅぷっ♡

耐えっ…
――っ!!
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
奥っ…!!
奥うっ…!!
ああ～っ♥
あああああっ♥
ぐりゅ
ぐりゅ

ふはは っ凄い
吸い付きだ!!
そんなに
気持いいか
アンナッ!!
私…
イッてる…!!
ぁぁ〜♡
ぁぁぁ…♡

私は王子と繋がっていました。
それは王子と過ごす何度目かの夜でした。
「アンナッ…アンナ！」
私の体内にあるペニスは硬く、王子は激しく私を
求めてきます。

「王子っ…」
王子の興奮が伝わって来て私は幸せでした。
それは私が伽の相手として…その役目を充分に
果たせているという意味なのです。

（いま私は政務官としてでは無く…
女として求められている…！）
ずっと想い続けてきた王子の寝室に呼ばれ、
愛しあう事の出来る喜び。

「ああっ…王子っ…！」
王子に何度も突き上げられ、幸福感と快楽に
満たされて私は達してしまうのでした。

絶頂と同時に私の膣が
ペニスを強く締め付けます。
ヒクヒクと…まるで王子の
精を求めるような浅ましい動き。

最初はそんなはしたない
自分に戸惑いました。
でも私の膣の…自分から精を
搾り取ろうとする締まりが
王子を喜ばせるのです。

それに気付いてから私は…
積極的に淫らな自分を
さらけ出して行きました。

王子にもっと喜んでもらう
為に…私の身体は絶頂の度に
精を求める様になったのです。

そして今

…達してしまった私の身体は同じ様に彼の精を欲しました

ああっ

らめっ…

ビクン

こんなのらめぇっ!!

ビクン

ビクン

くくっお前のマ○コが俺のチ○ポを締めあげてるぞ!

王子のもこんな風に楽しませたのか?

違うのに…この人は王子じゃ無いのに…

キャララ♥

キャっ♥

私の膣は精液を搾り取ろうと激しくペニスに吸い付くのです

ビクン

次の瞬間
更に激しく…！

いっ…
やぁ!!!

いつもと違うペニス…
いつもより逞しい
ペニスに…

私の性器は王子の
時よりも激しく
吸い付きました

おお!?
搾り取られる!!

たっぷり受け
止めろアンナ!!

そして…
王子のより
ずっと熱い…

焼ける様な精液を
自分から搾り取った
のです…！

こんなの
まっ!?

はまま
まま♡

ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ

びゅる
びゅる
キュウ♡
キュウ♡

あ…あ…膣内に射精されて…

膣内射精でイクッ！
またイッちゃう！

あっ…あああっ♥

あっあっ♥

あぁっ♥

注がれた精液の熱さにまたイッてしまう

膣内はペニスを締め付け続け…

ビクン

ビクン

ビクン

いつまでも余韻が続いて…

♥

どくん
どくん

あぁぁ♡♡!?

ゾクッ

ここも可愛がってやるぞアンナッ

ゾクッ

乳首責める度にマ○コ吸い付いてるぞ？

乳首ダメッ…乳首っ…

あぁ～っ♡♡

ゾクッ

ゾクッ

乳首を責められて…

乳首をまたイッた…

その後も…私は何度も何度も…！

きゅん♡

きゅん♡

ああ…
やっと…おわった…？
結局…何度達したのでしょうか
私をこんなに絶頂させておいて彼のペニスはまだ隆々としているのです
ああ凄い…本当に凄い…！
こんな気持ちいいセックスは…初めて…！
ヒクッ
ヒクッ

こんな気持ちいい
セックスは…
初めて…!!
初めて味わった
連続絶頂…いや…
むしろ一括りの
大きな波でした
王子以外の男性と
濃密な時間を共有して
しまったという後悔
ともかくも…数時間
続いた私への陵辱は
やっと終りを迎え…

つ!?
そんなっ…まだ続けるのですか?
私はもう限界っ…
くくく…何を言うか
あんなに気持ち良さそうにしてたクセに
ちっ違いますっ!!
さっきのは本当の私じゃ…

あっあっあっ!?
分かっているともアンナ!
お前が本当の自分を知るのはこれからだ!!
まぁ~っ!!!
ずぶずぶずぶ…

その後も陵辱は延々と続きました
ふっ
ふっ
あっ♡
あぁっ♡
「一晩中可愛がってやる」私を犯す前に彼はそう言いました
それはまさしくその言葉通りの意味だったのです
彼は恐ろしい絶倫で萎えてもすぐに回復してしまう
私は思いもしませんでした
この陵辱劇があと五時間以上続くと言う事に…

それから何度絶頂を迎えたでしょうか
恐ろしい事に…体力が限界だったはずの身体はますます燃え盛って行くのです
私の身体のどこにこれほどの欲望が潜んでいたのか…
ほらっまた射精すぞアンナッ！
ビュ♡
ビュ♡
ビュ♡
ぶしゅぶしゅぶしゅ
まぁまぁ～っ♡
まるで本物の雄との出会いで自分の中の雌が目覚めていくかのようです

分かるなアンナ…これが本当のお前だ
理性的な仮面の下でお前がずっと抑え続けてきた
政務官アンナの雌の本性だ！
どくどくどぷっ…
まだ…こんなに射精てる…！
あ…♡
あぁん…♡
ああ…なんて凄い男性なの…！
身体が…もっと続けて欲しいと願ってる…
これが私の…雌としての本性…！

政務官の仮面の下に隠し続けてきた雌の本性だ！
これが本当のお前だ
何時間にも及ぶ陵辱
繰り返し訪れる圧倒的な快楽
あ♡
あっ♡あっ♡
ひと晩の内に…
私の身体は彼の所有物(モノ)へと
躾けられていったのです

そして今私は一番奥を…もっとも感じる場所を攻めたてられています

大きく脚を広げられ…とてもみじめな格好で…

そこは私の一番弱い場所なのです…王子にも何度も攻められました

でも彼は王子よりも的確にそのポイントを…そして強弱を織りまぜながらテンポよく攻め立ててくるのです

ぱっ♡

ぱっ♡

ぱっ♡

ぱっ♡

そろそろ仕上げをしてやるぞアンナッ！

お前を身も心も堕としてやるっ！

じゅっぽ

じゅっぽ

彼が今夜の総仕上げをしてることに気付き私は高揚しました

これまでを遥かに越えた最高の快楽がもうすぐやってくるのです

最高の快楽…！
身も心も溶けて
しまうかも
知れない…！
こんなみじめな姿で…？
ベッドもシーツもない
冷たい石畳の上で…？
何よりも…
王子以外の
男性に…！
耐えなくては…！
次の瞬間だけでも
耐えなければ…！
心まで…心まで堕ちる
事だけは決してあってはならないのです…！

長い夜の終わりが
近づいていました
私の手は所在無く
宙を彷徨いました

でも周りには掴むシーツも
無く身を支えてくれる
ベッドもありません
代わりに背にあるのは冷たく
硬い石畳の床だけなのです

（こんな格好で……これから
来る快楽を受け止めなければ
ならないの……？）
すがる物が何もない……それは
まるで中空に投げ出されている
ような不安な感じでした
惨めで惨めでたまりませんでした

（王子……王子……！）
すがるものは心の中にありました
心の中で王子を強く思えば
どんな苦難も耐えられる筈です
（王子……私は負けません……！）

次の瞬間
彼は私に覆い被さり
その巨躯を寄り添わ
せて来たのです

逞しい腕が背中を支え
力強く抱き寄せられ
乳房が厚い胸板に
押しつぶされます

はっ…

ムニュ

筋肉で盛り上がった
彼の身体はとても力強く…
合わさった胸板からは
熱く情熱的な鼓動が
伝わってきました

気が付くと夢中ですがり付いていました
それは想像の中で誰かにすがるよりずっと頼もしかったのです
はっ♡
はっ♡
背中を支える太い腕
伝わる温もり
この逞しい肉体があればシーツもベッドも必要ありません
ただ彼に身を委ねれば良いのです
思わず彼に感謝しました
ああ…この人の…この人の…！

この男性の精子が欲しい！
来て！射精して！
私の膣内に最高の射精をして！
あ…♡
あ…♡
ぎゅう…♡
ビク♡
ビク♡
初めて心の底から彼の精液を欲しいと思いました
ああ…これが本当の私――！

来たァっ……♥
たくさんっ……♥
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
あはぁ♥
あはあああああ……♥
びゅるるる…
どぴゅ
キュン♡
どぴゅ
キュン♡
どぴゅどぴゅどぴゅ

ああ…来てる…♥
来てるぅ…♥

私の膣内に
彼の精液が…♥

ビク♡

あ…♡

あぁ♡

ビク♡

びゅるる…♡

びゅるる♡

ビク♡

どぷ♡

どぷ♡

彼ともっと
こうしていたい…
それ以外…

もう何も…考えられ
ませんでした…！

王子の助けはいつ来るのでしょうか

『あ…王子…』
廊下で王子に出くわしてしまいました。
『アンナ…今夜は楽しみにしている…』
『は…はい…』
いつもは口数の少ない王子の言葉に、こちらの方が無口になってしまいます。
今夜は私が王子のお相手を務めるのです。
王子の活躍によって窮地を救われた美しい女性達。
その御心に触れ、想いを寄せるようになるのは当然の成り行きです。
大勢の女性達に慕われ、伽のお相手に事欠くことの無い王子はそれでも…
月に一度は私を寝室へ呼んで下さるのです。
それはとてもとても光栄な事でした。

……
これは…
どうなのでしょう…？
どんな装いにすれば良いのかはいつも頭を悩ませます。
普段王子のお相手を務めるのは…羨む程に魅力的な方ばかりなのですから。
だからこそ…少しでも他の女性達に見劣りしないように。
大人しめが良いのかもっと大胆な方が良いのか。
王子はいつも褒めてくれるので逆に分からなくなってしまいます。
（まだ夜までは時間もありますし…後でもう一度考えましょう…）

しかしその夜王子と一夜を過ごす事は叶いませんでした。

初めて王子の寝室に呼ばれた時と同じく…魔物襲撃の報が届き、私達はすぐに出発しなければなりませんでした。

しかし悪天候により私は一人はぐれ気が付けば囚われの身。

戦地まで辿り着くのにも数日。はぐれた私が合流していない事に王子が気付くのはその時でしょう。更に魔物討伐に幾日掛かるのか…

すなわち今夜王子が助けに来られない事は本当は分かっていたのです。

はあ♥

はあ♥

はあ♥

鏡の前に居たあの時から…まだ二日も経っていないのに

見知らぬ男性とこうなるなど誰に予想出来たでしょうか

どく♥どく♥

びゅるるっ…

くく…本当に凄いぞアンナ…
お前は俺が出会った中で最高の女だっ…！
最高の女だなんて…
嬉しい…！嬉しい…！
ビクン♡
ビクン♡
凄い…まだこんなに脈打って…！
ビクン♡
彼の射精は一段と長く続き…終わっても
ペニスは逞しく勃起を維持しています
私の性器はそんなペニスに愛おしく吸い付き続けていました
私達は一つの生き物のようになってしばらく余韻を楽しんでいたのです

これでもう
お前は身も心も
俺の物だ

俺専用の女として
毎晩たっぷり
犯してやる

毎晩
たっぷり…！

そんなの…♥
凄すぎます…♥

もはや私は
政務官アンナ
では無く

力強い雄に屈服
した一匹の雌に
すぎませんでした

ふふふ…これで完全に堕ちたな

これほどの美貌に加え極上の身体…まさしく最高の女だ

この身体相手に王子とやらではそれが限界だろう

この俺がアンナをもっと開発してやる…この女を覚醒させ…そして第2覚醒まで登らせてやる

それなりに開発されてはいたようだが…俺に言わせればlv30程だな

これからアンナがどれ程の痴態を見せるのか…楽しみで堪らないぜ…！

もうお前は完全に俺のものだ

さあ宣言するんだ自分が誰のものなのかその言葉で

あ…

もはや答えは決まっていました

それ程までに彼の雄としての力は圧倒的だったのです

先程の余韻が全身を支配していました理性は消し飛び…政務官としてでは無く一匹の雌として返答を返すだけなのです…

どろ…

その…
筈でした
しかし…

わ…私…
は…！

王子だけの…
政務官です…！

……！

それは殆ど無意識の返答でした
勝ち誇っていた陵辱者も予想外の
返答に驚いた様子です

そしてその言葉と共に王子
への想いは強く蘇りました
理性的な力が沸き上がって
くるのを感じます

そうなのです…私が十年間
抱いてきた王子への強い想いは
卑劣な陵辱者の想像など及ばない
ずっと深いところにあるのです

くっ…くくくっ！あれ程盛っておきながら堕ちてないと言い張るか！
いいぞっ！ひと晩で堕ちないとはますます気に入った！
耐え続けるがいい！耐えれば耐える程堕ちた時どうなるか一番お前が分かっているだろうからな！
負けません…必ず負けません！
いくら操を穢されても…！あるいは激しい快楽に一時は流されたとしても…！
私の王子への忠誠心は…そして愛は絶対なのです！

いずれ王子の魔物討伐は終わる…そうすれば私の捜索が開始される筈です

王子は必ず私を見つけて下さる…それまでの辛抱です

耐え続ける…！王子と再会出来るその日まで…！

身体は穢れてしまっても…再び政務官としてお力になる為に…！

こうして…これまでの人生で一番長かった夜が終わりを迎えました

だけど私は知らなかったのです

この一夜が…これから私が幾度も味わう長い夜のほんのひとつにしか過ぎないと言う事を…！

美しき政務官　完